

(11)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 8 月)	今回 (平成 29 年 11 月)	
鉱工業生産	高水準で推移	高水準で推移するも、一服感	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一服感がみられる。

7 - 9 月期には、輸送機械は、普通自動車等が強含んだことから増加した。電子部品・デバイス、半導体集積回路 (CCD・その他) 等を中心に高水準で推移するもやや減少した。はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等が弱含んだことから減少した。化学・石油石炭製品は、プラスチック等が弱含んだこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	24.5	3.1	0.7	3.6	0.1	10.3
電子部品・デバイス	12.3	1.6	3.2	5.1	4.1	3.0
はん用・生産用・業務用機械	11.2	1.4	5.2	10.2	20.6	6.6
食料品	9.6	2.0	1.0	0.5	1.2	2.8
化学・石油石炭製品	8.3	1.3	6.8	3.7	2.7	1.1
鉱工業	100.0	0.2	1.5	1.6	1.7	4.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9 月期、9 月は速報値。

(備考) 1. 22 年 = 100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

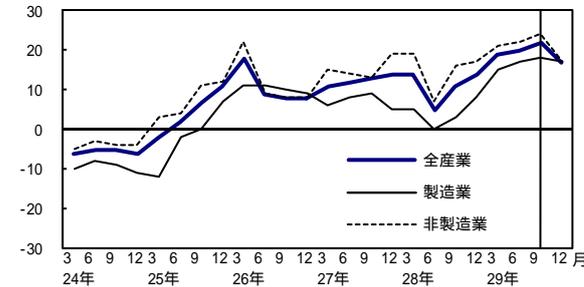
直近月は2か月平均。

(11) 九州

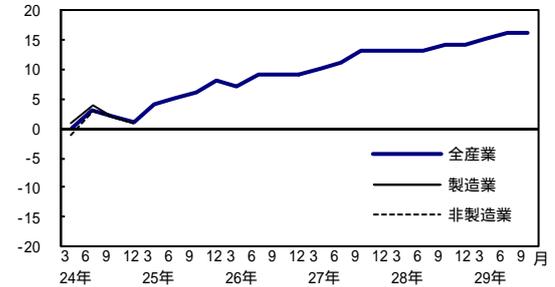
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



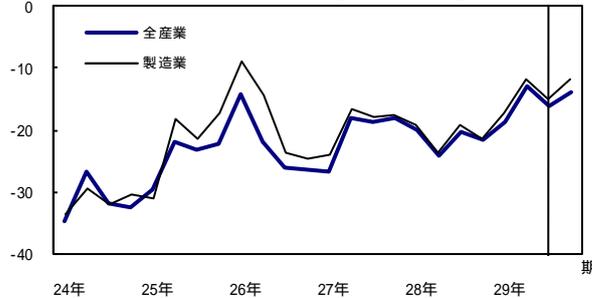
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から
製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



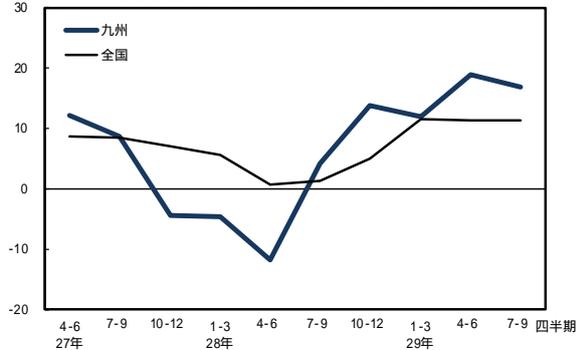
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「夏場から景気が弱含んでいるが、特に10月は天候不順により全般的に小売業は悪い(経営コンサルタント)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べ大幅に増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度計画
全産業	22.8	20.8 (0.5)
製造業	34.9	29.5 (0.1)
非製造業	5.2	12.0 (1.3)

(備考) 1.()は前回(6月)調査比修正率。

2. リース会計対応ベース。

3. 沖縄を含む。

(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」
の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月
で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.5%減、8月は同0.2%増、9月は同0.9%減となった。

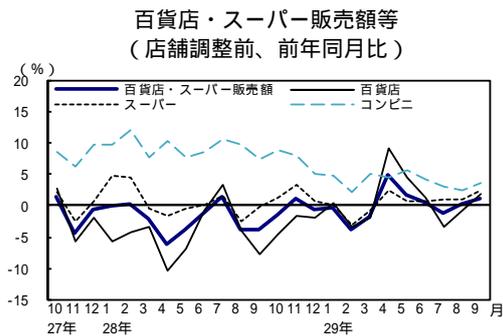
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、化粧品、宝飾・貴金属等に動きがみられたものの、衣料品、飲食料品の動きが鈍く、前年を下回った。8月も、化粧品、宝飾・貴金属等に動きがみられたものの、衣料品、飲食料品の動きが鈍く、前年を下回った。9月は、衣料品、身の回り品、飲食料品に動きがみられ、化粧品、宝飾・貴金属等の動きが良く、前年を上回った。

スーパーは、7-9月期は、医薬品や化粧品等に動きがみられ、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「各地の記念レースの発売額が、前年比で大幅減になっている(競輪場)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



	29年7-9月	29年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.1	0.5	0.2	0.9
百貨店・スーパー(*2)	0.1	1.2	0.2	1.0
百貨店(*3)	1.0	3.4	0.6	2.0
スーパー(*3)	1.5	1.1	1.0	2.6
コンビニ(*3)	3.0	3.0	2.4	3.5
乗用車(*4)	5.4	5.4	4.3	6.1
(季節調整値)(*4)	8.7	9.3	1.5	1.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

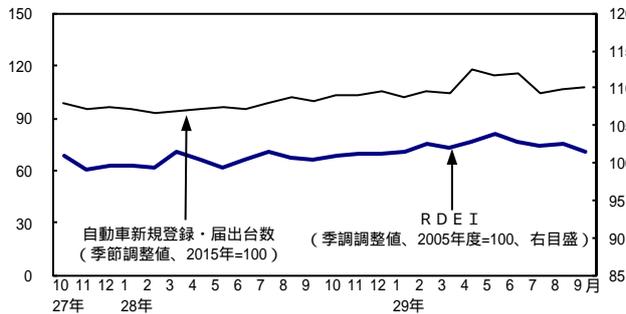
3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

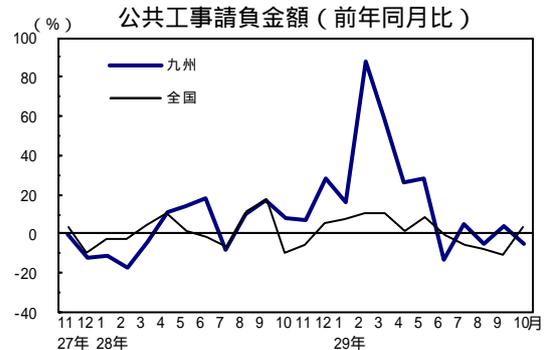
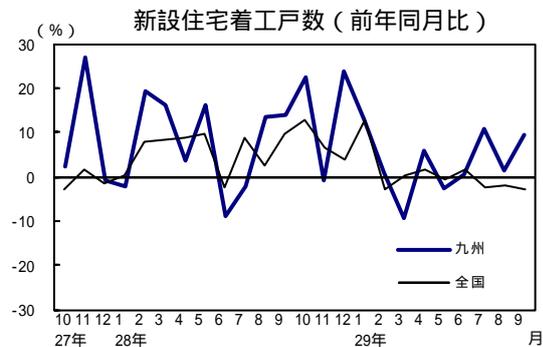
RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(2) 住宅建設は前年に比べて増加している。

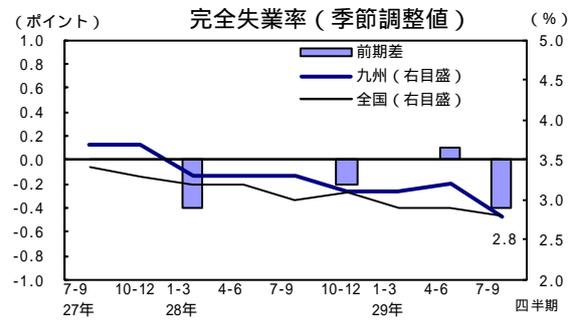
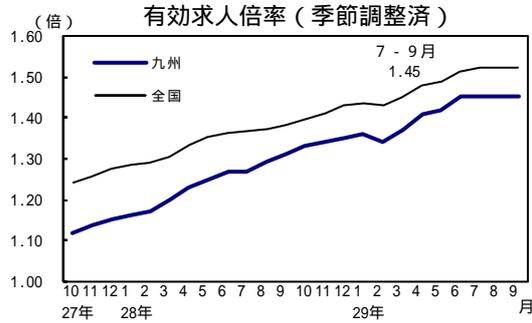
持家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
 有効求人倍率及び完全失業率等
 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考)内閣府にて季節調整。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[雇用関連(現状)]

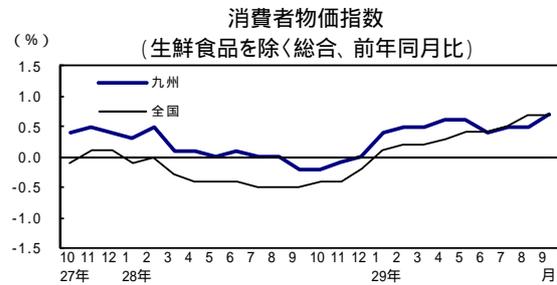
「求職者数が求人数に対し、圧倒的に不足している。企業から提示される派遣社員の時給は上昇を続けているが、正社員求人数も増加しているため派遣会社への新規登録者数が減少している。各業界の景気は良く、人手不足が続いており求人数は多く獲得できているのに、人材が不足しているため紹介できず、成約に至らないことが非常に多い(人材派遣会社)」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに減少している。

- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
倒産件数	133	128	128	119	59
(前年比)	9.5	15.2	12.3	21.2	9.3
負債総額	135	326	264	114	57
(前年比)	50.7	17.6	2.6	70.5	37.0



景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・気温が高かった前年よりも、気温が下がり秋の訪れを感じる今年の方が、衣料品の動きが良かった。4月以降外国人観光客が戻り、好調だった一昨年の実績までに戻した(百貨店)

<先行き>

- ・明治維新150年、大河ドラマと、当県にかかわる広報活動が活発になるため売上に貢献できる(その他小売の動向を把握できる者[土産卸売])

